

## 1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

| 得点    | 人数  |      |
|-------|-----|------|
|       | 人数  | %    |
| 100   | 0   | 0.0  |
| 90～99 | 3   | 0.5  |
| 80～89 | 24  | 3.7  |
| 70～79 | 110 | 16.9 |
| 60～69 | 159 | 24.5 |
| 50～59 | 165 | 25.4 |
| 40～49 | 114 | 17.5 |
| 30～39 | 51  | 7.8  |
| 20～29 | 17  | 2.6  |
| 10～19 | 7   | 1.1  |
| 1～9   | 0   | 0.0  |
| 0     | 0   | 0.0  |

\*合格者の中から、無作為に抽出した650人(13.0%)の結果である。

\*%の数値は、小数点第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率(%)

| 大問 | 小問 | 正答率  |      |
|----|----|------|------|
| 一  | 問一 | ㉠    | 80.5 |
|    |    | ㉡    | 84.8 |
|    |    | ㉢    | 80.0 |
|    | 問二 | 67.5 |      |
|    | 問三 | 25.8 |      |
|    | 問四 | 86.2 |      |
| 二  | 問一 | ㉠    | 75.3 |
|    |    | ㉡    | 87.2 |
|    |    | ㉢    | 80.8 |
|    | 問二 | 68.2 |      |
|    | 問三 | 52.9 |      |
|    | 問四 | 29.4 |      |
| 三  | 問一 | 80.6 |      |
|    | 問二 | ㉠    | 89.8 |
|    |    | ㉡    | 63.3 |
|    | 問三 | 55.4 |      |
|    | 四  | 問一   | 72.2 |
|    |    | 問二   | 14.2 |
| 問三 |    | 70.4 |      |
| 問四 |    | 30.8 |      |
| 問五 |    | 13.2 |      |
| 問六 |    | 87.9 |      |

〈表3〉

| 大問          | 平成21年度 | 平成22年度 |
|-------------|--------|--------|
| 一 文学的文章     | 70.2   | 54.6   |
| 二 説明的文章     | 56.8   | 57.0   |
| 三 融合(古典・表現) | 52.0   | 52.2   |
| 四 言語事項      | 58.0   | 71.7   |

| 大問      | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|---------|--------|--------|--------|
| 一 文学的文章 | 61.1   | 64.3   | 62.0   |
| 二 説明的文章 | 59.6   | 64.4   | 52.9   |
| 三 活用    | 59.8   | 44.5   | 67.6   |
| 四 古典・韻文 | 60.8   | 51.5   | 45.4   |

## 2 分析結果の概要

〈表1〉について、70点以上の人数は全体の21.1%で、昨年度に比べ減少した(昨年度23.7%)。40点未満の人数は全体の11.5%で、昨年度に比べ減少した(昨年度14.2%)。平均点を中心として、ほぼ正規分布となっている。

〈表2〉について、正答率80%以上の問題数は9問で、言語事項に関する知識・理解を問う問題の正答率が高かった。正答率40%未満の問題数は6問で、思考力・判断力・表現力等を必要とする問題の正答率が低かった。

漢字の読み書きの正答率は高かった(一の問一、二の問一)。また、インタビューや敬語表現、書写に関する問題の正答率も高かった(三の問一、問二の㉠、四の問六)。

一方、文章の展開に即して内容を的確にとらえ、書いてまとめる問題や、文章の構成や展開をとらえる問題の正答率が低かった(一の問三、問五、二の問四、問五、三の問三、四の問五)。また、古典の基本的な知識・理解を問う問題も、正答率が低かった(四の問二、問四)。

〈表3〉について、三の情報を活用する力等をみる問題の正答率は、昨年度より高かった。一方、一の文学的文章、二の説明的文章、四の古典の内容や表現を理解する力等をみる問題の正答率は、昨年度より低かった。

3 小問ごとの内容及びねらい

| 大問 | 小問 | 内容    | 出題のねらい                                 | 出題形式 |    |    | 評価の観点        |      |      |          |
|----|----|-------|--|------|----|----|--------------|------|------|----------|
|    |    |       |  | 記号選択 | 抜出 | 記述 | 話すこと<br>聞くこと | 書くこと | 読むこと | 知識<br>理解 |
| 二  | 一  | 文学的文章 | 漢字を正しく読むことができる。                        |      |    | ○  |              |      |      | ●        |
|    | 二  |       | 文章の展開に即して副詞の意味を指摘することができる。             | ○    |    |    |              |      | ●    | ●        |
|    | 三  |       | 文章の展開に即して情景や人物の描写をとらえ、書いてまとめることができる。   |      |    | ○  |              | ●    | ●    |          |
|    | 四  |       | 文章の展開に即して登場人物の言動や心情をとらえることができる。        | ○    |    |    |              |      | ●    |          |
|    | 五  |       | 文章の展開に即して登場人物の心情の変化をとらえ、書いてまとめることができる。 |      |    | ○  |              | ●    | ●    |          |
|    | 六  |       | 文章表現の特徴やその効果をとらえることができる。               | ○    |    |    |              |      | ●    | ●        |
| 三  | 一  | 説明的文章 | 漢字を正しく書くことができる。                        |      |    | ○  |              |      |      | ●        |
|    | 二  |       | 主語と述語の対応を指摘することができる。                   |      | ○  |    |              |      | ●    | ●        |
|    | 三  |       | 文章の展開に即して内容を的確にとらえることができる。             | ○    |    |    |              |      | ●    |          |
|    | 四  |       | 文章の展開に即して主張と具体例の関係をとりえ、書いてまとめることができる。  |      |    | ○  |              | ●    | ●    |          |
|    | 五  |       | 文章の展開に即して段落相互の関係をとりえることができる。           | ○    |    |    |              |      | ●    |          |
|    | 六  |       | 文章の主旨を的確にとらえることができる。                   | ○    |    |    |              |      | ●    |          |
| 四  | 一  | 活用    | インタビューの仕方とその効果をとらえることができる。             | ○    |    |    | ●            |      |      |          |
|    | 二  |       | 情報を活用し、適切で分かりやすい表現に書き改めることができる。        |      |    | ○  |              | ●    | ●    | ●        |
|    | 三  |       | 情報を活用し、条件を踏まえて自分の体験や意見を書くことができる。       |      |    | ○  |              | ●    | ●    |          |
| 四  | 一  | 古典    | 書き下し文に従い、漢文に返り点を正しく施すことができる。           |      |    | ○  |              |      | ●    | ●        |
|    | 二  |       | 現代語訳を参考にして、古文の主語を正しくとらえることができる。        | ○    |    |    |              |      | ●    |          |
|    | 三  |       | 複数の文章を読み比べ、語句の意味を正しくとらえることができる。        |      | ○  |    |              |      | ●    |          |
|    | 四  |       | 文章の展開に即して内容を的確にとらえることができる。             | ○    |    |    |              |      | ●    |          |
|    | 五  |       | 複数の文章を読み比べ、主張と例示の関係をとりえ、書いてまとめることができる。 |      |    | ○  |              | ●    | ●    |          |
|    | 六  |       | 行書の漢字を楷書で書いた場合の画数を指摘することができる。          | ○    |    |    |              |      |      | ●        |

#### 4 標準解答及び考察



##### 〈標準解答〉

|    |  |     |       |
|----|--|-----|-------|
| 問一 | ① おおうなばら   | ② こ | ③ ひんど |
| 問二 | イ  |     |       |
| 問三 | (例) 理央に、素直に受け入れられた   |     |       |
| 問四 | エ  |     |       |
| 問五 | (例) モコが早く立派に飛べるように、努力させたいと思っていたが、広い心を持つべきだ<br>という平橋さんの忠告により、自分の気持ちしか考えていない自分に気付き、モコにす<br>まないと思うようになった。 |     |       |
| 問六 | ウ  |     |       |

##### 〈ねらい〉

文学的文章を素材として、文学的文章を読むための基礎力や、登場人物の言動や心情を的確にとらえる力、読み取った内容を適切にまとめる力等をみる問題である。豊かな心を育てるという観点にも配慮している。

##### 〈考察〉

- ・ 正答率は62.0%で、昨年度に比べやや低い(昨年度64.3%)。
- ・ 漢字を正しく読む問一、場面や登場人物の心情を読み取り、朗読の仕方として適切なものを選択肢から選ぶ問四の正答率が高い。
- ・ 文章中の比喩的な表現(平橋さんの言葉が空にしみこむ)を、別の言葉で説明する問三の正答率は、25.8%とかなり低い。「空」が、登場人物である理央の心を表すという説明が不足しているものや、「しみこむ」を別の言葉(受け入れられる・理解される等)に言い換えず、そのまま用いている解答が目立った。
- ・ 登場人物の言動から心情の変化とそのきっかけをとらえ、書いてまとめる問五の正答率も、46.0%と低い。理央の心情が変化するきっかけとなった平橋さんの忠告について、具体的な内容の説明が不足している解答や、理央の気付き(自分の気持ちしか考えていない)と変化後の理央の心情(モコにすまない)のうち、どちらかが不足している解答が目立った。文章の内容を的確に読み取り、条件に合うように、文章中にある表現や自分の言葉を使ってまとめる力に課題がみられる。

##### 〈今後の指導〉

- ・ 生徒の読むことへの関心や意欲を高める学習課題を設定し、文章の表現を根拠に、生徒の多様な読みを引き出しながら、登場人物の言動や心情、思考の変化などについて検討・吟味する授業展開を工夫する。
- ・ 「読むこと」の指導だけでなく、「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の指導との関連を図り、読み取った内容について書いてまとめたり、話し合ったりするなど、生徒の表現する力の向上に結びつく授業場面を設定する。
- ・ 授業で扱った教材に関連する文章や本を紹介したり、学校図書館等を活用して生徒の読書活動を積極的に促したりするなど、多様で良質な文章表現に触れさせる機会を増やす。



##### 〈標準解答〉

|    |   |      |      |
|----|---|------|------|
| 問一 | ① 半   | ② 保護 | ③ 困難 |
| 問二 | 言った   |      |      |
| 問三 | ア   |      |      |
| 問四 | (例) 田を開墾してくれた先祖への、感謝の気持ちを忘れないために、田に先祖の名前を付けて呼ぼうとする意志。 |      |      |
| 問五 | イ   |      |      |
| 問六 | ウ   |      |      |

##### 〈ねらい〉

説明的文章を素材として、論理的文章を読むための基礎力や、文章の論理の展開や要旨をとらえる力、読み取った内容を適切にまとめる力等をみる問題である。幅広いものの見方や考え方を養い、視野を広げるといった観点にも配慮している。

### 〈考察〉

- ・ 正答率は52.9%で、昨年度に比べ低い(昨年度64.4%)。
- ・ 漢字を正しく書く問一の正答率が高い。
- ・ 文章の展開に即して内容をとらえ、説明として適切なものを選択肢から選ぶ問三の正答率は、52.9%とやや低い。「存在」「認識」などの、やや抽象度の高い語句の意味をとらえ、文章中から根拠となる内容(「自分が現在生きているのは、～と認識している。」)をとらえる力が不足している。
- ・ 文脈に即して指示内容を正しくとらえ、主張と例示の関係を把握し、読み取った内容を書いてまとめる問四の正答率は、29.4%とかなり低い。「それ」の指示内容である「畏敬の念」、文章中の「その田があるお陰で」に対応する記述(感謝の気持ち等)がない解答が多かった。また、「十兵衛という人が、田を開墾したことを忘れない。」などのように、「表現しようとする意志」に対応する記述(田に先祖の名前を付けて呼ぼうとする)がない解答も目立った。文章の内容を的確に読み取り、条件に合うように、文章中にある表現や自分の言葉を使ってまとめる力に課題がみられる。
- ・ 文章中の段落相互の関係をとらえ、適切な説明を選択肢から選ぶ問五の正答率は、16.5%とかなり低い。各段落の要旨を大づかみに把握し、それらが文章全体の中で、どのような関係にあるのかをとらえる力に課題がみられる。

### 〈今後の指導〉

- ・ 段落ごとの詳細な読みだけでなく、文章全体の中で問題提起や結論、主張や具体例にあたる部分を大きくとらえさせる授業展開を工夫する。
- ・ 説明的文章の中で使われる抽象的な概念を表す語句等に慣れさせ、設問の条件や字数制限に合わせたまとめ方を意識させる。
- ・ 比較的長めで論理性の高い文章を読ませ、文章の一部分または全体について、その要点をまとめさせる場を多く設けるとともに、根拠を明確にしながら自分の考えや意見を述べさせる。

## 三

### 〈標準解答〉

|    |   |
|----|---|
| 問一 | ウ   |
| 問二 | ①(例) 伺い(お聞きし)ました<br>②(例) たくさん本を読む人と全く本を読まない人の   |
| 問三 | (例) 選んだ資料=A<br>全国の読書調査によると、中学生の不読者の割合は、近年少しずつ高くなっており、本を全く読まない生徒が増えているようです。しかし、読書は、私たちに新しいものの見方や考え方を教え、私たちの心を豊かにしてくれます。私は、若山牧水の歌集を読み、ふるさとや自然を愛する牧水の生き方に、深く感動したことがあります。 |

### 〈ねらい〉

中学生の図書委員が社会人にインタビューを行い、その記録や仲間の助言、資料等を生かしながら、図書だよりを作成するという設定を通して、文章やグラフ等から必要な情報を読み取りまとめる力、読み取った情報や自らの体験を基に、表現する力等をみる問題である。様々な言語文化についての関心を深め、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てるといった観点にも配慮している。

### 〈考察〉

- ・ 正答率は67.6%で、昨年度に比べかなり高い(昨年度44.5%)。
- ・ インタビューを行う際の工夫点について、適切なものを選択肢から選ぶ問一、文章の展開に即して適切な敬語表現に書き直す問二の①の正答率は、それぞれ80.6%、89.8%と高い。
- ・ 文章の展開に合うように、グラフや文章(和歌)等から読み取った内容を生かし、自分の体験を交えながら意見を書く問三の正答率は、55.4%と低い。特に、グラフや文章等からの情報の読み取りが不十分な解答、自分の読書体験や読書の意義について、具体的な説明に欠ける解答、表現に無駄が多く、字数内にまとめきれない解答、自分の具体的な体験を意見につなげられない解答などが目立った。与えられた情報を自分の体験と結びつけながら、目的や意図に応じて書く力に課題がみられる。

### 〈今後の指導〉

- ・ 目的に応じて資料(文章やグラフ、図表等)から必要な情報を読み取り、それを日常的・実用的な言語活動に生かす場面を設定する。
- ・ 明確なねらいの基に、教師や生徒同士の対話や交流が生まれるような言語活動を授業の中に組み入れる。
- ・ 意見を書かせる場面では、主張とその根拠が明確であるか、どのような構成や展開が効果的であるかについて、個人やグループで吟味する場面を設定する。

**四**

## 〈標準解答〉

|    |   |
|----|---|
| 問一 | (例) 得 <sub>二</sub> 以 操 飲 <sub>一</sub> 。 |
| 問二 | d                                       |
| 問三 | うるさい                                    |
| 問四 | ア                                       |
| 問五 | (例) 人は、名誉や利益を求めず、質素に暮らすべきだという主張。        |
| 問六 | エ                                       |

## 〈ねらい〉

中国の故事について書かれた漢文と、その内容を例として用いた古文の素材を通して、古典を読むための基礎力をみるとともに、複数の文章を読み比べ、内容を理解し、まとめる力等をみる問題である。書写に関して、行書を楷書に直したときの画数についての理解をみている。魅力ある様々な古典作品を読み味わい、古典の世界に親しむ態度を育てるという観点にも配慮している。

## 〈考察〉

- ・ 正答率は45.4%で、昨年度に比べ低い(昨年度51.5%)。
- ・ 行書の漢字を楷書にした場合の画数と同じ総画数の漢字を、選択肢から選ぶ問六の正答率は、87.9%と高い。
- ・ 古文の主語を選択肢から選ぶ問二の正答率は14.2%とかなり低い。古文の特徴である主語の省略に関して、文脈に即して省略された主語を補って読むという、古文を読解する際に必要となる基本的な力が不足している。
- ・ 文章の展開に即して適切な内容を選択肢から選ぶ問四の正答率は30.8%、主張と例示の関係をとらえ、筆者の主張を書いてまとめる問五は13.2%とかなり低い。漢文と古文を読み比べ、現代語訳や語注を手がかりにしながら、古典の大まかな内容を読み取る力が不足している。

## 〈今後の指導〉

- ・ 日頃から音読・朗読などを通して古典に親しませるとともに、古典を読み深めるためには基本的な知識や技能が必要となることを、生徒に実感させるような授業展開の工夫をする。
- ・ 教科書にある語注や現代語訳、鑑賞文などを参考にしながら、古典の内容を読み深め、表現の特徴やその面白さについて、互いの意見を述べ合う場面などを授業の中に設定する。
- ・ 折に触れて古典のすぐれた作品を紹介したり、学校図書館等を活用しながら課題解決のための学習を行ったりして、言語文化に対する興味・関心を高め、日常の自己の言語生活を豊かにする意識をもたせる。